

Clinical Pharmacology

2 units alternate-year(1st semester)

Yoshiharu Takiguchi(Manager) · PROFESSOR / PHARMACEUTICAL LIFE SCIENCES, Naoshi Yamazaki · ASSOCIATE PROFESSOR / PHARMACEUTICAL LIFE SCIENCES

Target) 個々の患者に対する安全で有効な合理的薬物治療を支援し、医薬品の適正使用を支えるために必要な実践的知識を身につける。

Outline) 医薬品開発および医薬品の適正使用に役立つ薬剤の有効性と安全性の予測評価理論と、薬効変動に影響を及ぼす生体側因子を考慮した医薬品適正使用へのアプローチについて、その考え方と応用を解説する。

Notice) e-learning 化していない

Schedule)

1. PK パラメーターの活用法 (1) (担当者: 滝口祥令)
2. PK パラメーターの活用法 (2) (担当者: 滝口祥令)
3. PK/PD モデルによる薬効予測 (1) (担当者: 滝口祥令)
4. PK/PD モデルによる薬効予測 (2) (担当者: 滝口祥令)
5. アニマルスケールアップ法による薬効予測 (1) (担当者: 滝口祥令)
6. アニマルスケールアップ法による薬効予測 (2) (担当者: 滝口祥令)
7. 時間薬物治療学と個別化治療 (担当者: 滝口祥令)
8. 薬理遺伝学と個別化治療 (担当者: 滝口祥令)
9. 薬物療法の EBM 実践 (担当者: 滝口祥令)
10. 臨床試験プロトコール作成 (担当者: 滝口祥令)
11. 薬物治療効果を左右する生体因子 (1) 酵素 (担当者: 山崎尚志)
12. 薬物治療効果を左右する生体因子 (2) 受容体 (担当者: 山崎尚志)
13. 薬物治療効果を左右する生体因子 (3) ホルモン (担当者: 山崎尚志)
14. 薬物治療効果を左右する生体因子 (4) 生活習慣 (担当者: 山崎尚志)
15. 薬物治療効果を左右する生体因子 (5) 性差・種差 (担当者: 山崎尚志)

Evaluation Criteria) レポート及び受講態度により総合的に評価する。

Textbook) 資料を配布する。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217083>

Contact)

⇒ Takiguchi (+81-88-633-7466, takiguti@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 講義開講日の12:00-13:00)

⇒ Yamazaki (+81-88-633-9516, yamazaki@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 講義開講日の12:00-13:00)

Note) 平成 24 年度開講